

特集：抗菌性飼料添加物を巡る世界情勢とわが国の取組み

Symposium : International Trend and Present Status in Japan for Use of Feed Additive Antibiotics

今回のシンポジウムにあたって

小久江栄一（動物用抗菌剤研究会 理事長）

総会の時に行うシンポジウムの題材選びは理事会の重要な仕事である。沢山の会員の方々を集まってもらうために、ホットな話題を取り上げた。ホットな話題が見つかって人も人選で難航する場合もある。しかし、今年はテーマも人選も大変スムーズに決まった。

ご存知のように大分以前から、ニワトリや豚に使う成長促進用抗菌剤を禁止するかどうか世界中で大問題になっていた。日本はずっと静かだった。サイエンスを見つめる目が大分肥えてきたなと自負していたが、それは思い過ごしだった。農水省が突然「食の安全」と叫び、成長促進用抗菌剤禁止の方向を打ち出した。丁度そんな時期だったので、この日の理事会でも会が始まる前からその話が出ていた。そして、議題に入るとすぐにテーマはこれに決まった。お話ししていただく先生方の候補も沢山に出たと記憶している。ということで本年度のテーマは「抗菌性飼料添加物を巡る世界情勢とわが国の取組み」となり、講師の

先生も、田村豊、福本一夫、米持千里、大島慧の各氏をお願いすることになった。期待にたがわず各先生しっかりとお話され、参会者も多く活発な討議ができた。

特別講演の方は、VICHの環境毒性部門を担当して欧米の専門家相手に奮闘している遠藤裕子先生にお話をいただいた。これは私からの提案だった。私も環境毒性部門会議の末席に連なっており、以前から遠藤先生の活躍に頼もしい思いをしていた事もあるし、環境毒性の問題はこれからの獣医医療でも関心を払わなければならない事項とも思っていた。テーマ名は会の特性から「動物用抗菌剤の環境影響評価」としたが、動物薬全般の環境への影響の話をお願いした。これも期待にたがわぬ充実した内容であった。

沢山の方々に参加いただき密度の高い討論が出来た、本年度の特別講演、シンポジウムは成功であったと自負している。